

結んでひらいて

73

2011/September



「子育て・食育・農」




「みどり・環境」



「地域・人材発掘」



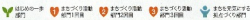
「共生・交流」



「文化・地域メディア」

10th

「世田谷まちづくりファンド」から、助成を受けて昨年度に活動を行った、まちづくりグループの1年間の活動成果をお伝えします。



子育て・食育・農

▼ 千歳小おやじの会

千歳小学校のおやじたちが中心となって、校外学習を通じて、子どもたちの健全な育成と地域活動に対して貢献を行う

サマースクール等の主催イベントの携、小学校・児童館等と連携した地域活動に参加。数方年経つ中で認知度が上がり、地域から関心する存在になつた。今後の課題はイベントの質の向上、人材確保と安定した自己資金確保。

<http://ameblo.jp/chitose-no-oyaji>



▼ Smile mam (第19回ころからで Selfee)

お母さんたちの笑顔が元気のもと！断乳ママがくつろげる5感がゆめ心スペースづくり

わくわくフェスタ出店で仲間も増え、活動の幅が広がった。年齢や性別にこだわらず、幅広く心のケア活動に取り組める。子どもからお母さままで笑顔になれるアロウの音楽活動と実践セルフケアで、まらとを笑顔でつなげていきたい。



▼ Green Kids Cafe

環境教育の勉強会ワークショップ

子ども向け環境教育ワークショップの手法を学ばせながら取り組むが、広報期間が短く参加の勢となった。恒互小学校で行った実証ワークショップでは、今も樹木博士検定や牛乳パックでの紙すきなどを続けて実施し環境の大切さを伝えることができた。



▼ ユニバーサル・キッズ・デイキャンプ

国立教育政策研究所センターの子どもたちに生き生きと勇気を

「涙中の子どもたちが勇んで出て来ると感動をもらって、達成を実感するための活動。1月にユニバーサル・ツアーを開催。ログ、メルマガなどで積極的に発信を推進。動画や写真を通して心のバリアフリーの意識を高める。

<http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/180>



▼ わいわいコミュニティたまがわ

多世代交流の拠点づくりに向けて

月2回、料理やものづくりを通じて多世代が参加できるゆるやかなコミュニティ「わいわいアロウ」を開催している。併せて地元ミズニクスセンターの中で、地域の子どもと交流や、親子・地域活動にもつづき活動づくりを推進していきたい。

<http://blog.goo.ne.jp/waicom/>



▼ フード・農土

食と農に関する活動を通してまちのコミュニティをすずめていく

食育会等や協力者探しでつまずき、地域の方との信頼関係の大切さを痛感。地元産品を使った料理教室開催のほか、地域団体との交流や地域イベントに参加。様々なつながりを大切に、地域で食と農を共に学び楽しむ仲間を増やしていきたい。

<http://food-food.cocolog-nifty.com/>



▼ 芦花フクロクラブ

犬は友達、仲間であることを子どもたちに伝えていく

ワンコトリロールやワンちゃん置きかご運動などのイベントや活動を開催中。今年も子どもたちに向けた勉強会を開催。動物と共存できる社会を目指し、今後ドッグラン利用者との立場から地域貢献を模索していきたい。



▼ T&I リーダーチーム

下の世代を育てるリーダー活動

中学・高校生とのメンバーによる、児童館や地域の行事をサポートするボランティア活動、体験リーダーチームも積極的に交流を行うことができた。今後も仲間とのつながりを大切にしながら互いに成長し、活動を大きくしていきたい。



▼ 放課後あそび舎

学習クラブの子どもも日常に「外遊び」を！
～自分の住む町を知り、地域の方とのふれあひ機会をつくりたい～

平日の放課後や夕食、土日の親子イベントを開催することで、親子も協力し合う活動ができた。口コミで、留守中ではない家の子も、放課外から公立小学校に通う子どもも参加するようになり、「地域の多様な子ども達との交流の場」ができてきた。

<http://moon.ap.teacup.com/asobiyu/>

▼ 塚戸小学校 おやじの会

塚戸小学校のお父さんたちが中心となって子どもたちの健全な育成と地域活動を行う

農年の収穫が、塚戸小学校をはじめ、近所の観光のイベント、秋祭り、朝市などにも参加する機会をいたが、今年も地域に貢献してはならない存在となった。今後も親子と協働を重んじ、様々な組織で地域に貢献していきたい。

<http://ameblo.jp/ot-oyaji/>



みどり・環境

▼ 桜並木と香川緑道公園を守る会

桜並木と香川緑道公園の素晴らしい自然を皆で守り育て、地域から環境美化活動を行い、緑と花のあふみ、住みよいまちをつつていく

春の活動は4年目を迎え、神楽を新れる方の参加。目的の神楽祭やまちなみづくりを通じての成果を写真、動画の写りや報道の紹介、イベント参加などでもPRも積極的に行ってきた。今後も日々コツコツと努力を続けていきたい。



▼ フラワーランド園芸ミニディ

高齢者・障がい者・子どもたちがファミリーに参加することにより、花造りを通して生き生きと暮らせる「まち」の創出

「花造りづくり」草花を育ててみんなで幸せになる」という趣旨の福祉のコンセプトをベースに、花づくりを高齢者から若者に活動を行い、賞状発表を4周年に増した。今後は、さらに他のボランティア団体とのつながりを強化していきたい。

<http://www.42.tok2.com/home/femhp/>



▼ 野川(世田谷区側)の多自然川づくりを考える連絡会

野川の多自然川づくりについて考える

自然の残る野川で観察会や調査を行っている団体や地域のみなさんと情報交換し、安全・再生を推進している。行政と共に川辺緑地のあり方を学ばせる作業を実施し、環境改善推進役をもつた。管理作業をしながら考えていきたい。



▼ 東京グリーンプロジェクト

子どもに無農薬野菜を！

無農薬野菜を地域の人と共有出来る場をつつてもらうことにより、食・自然・生活の大切さを伝える。野菜ワークショップや小学校の食育科で収穫体験を実施。さらに地域との交流を深め、児童・保護者をリーダーとする学校無農薬計画していきたい。



▼ 宗徳寺駅周辺風景づくりの会

宗徳寺駅周辺の風景づくり

商店街に於けるイベント配布や駅周辺の調査を行い、1年間の北沢川緑道整備を合わせた実行委員会をもち、地元の方と町内会役員員と交流したワークショップを実施し、具体的な提案を生み出した。多岐の賛同者を募り、活動を活性化していきたい。



公益信託 世田谷まちづくりファンド

「世田谷まちづくりファンド」は、区民の創造工夫にあふれたまちづくりを促進し、だれもが安心して暮らせる、人間性豊かな地域的なまちを創造することを目的に設立された基金です。地域の住みよい環境づくりを目指す様々な区民主体のまちづくり活動に対して毎年助成を行っています。

地域・人材発掘

▼ 世田谷トラストまちづくり大学同窓会

トラスト大学卒業生と、まちづくり団体をつなぐ人材バンク設立に向けて

ワークショップで全オリジナルTシャツを手作りして贈呈するなどのために、イベント場には費用無料で参加し、ファンド助成の団体へ実施したアンケート調査(回答15)をもとに、今後は各活動団体のニーズに応えられるよう、人材バンクの体制づくりを急ぎたい。



▼ 「仮称」街づくりの仲間たち設立準備会(第19回街づくりの仲間たち)

「街づくりの仲間たち」が実現する場をつくる活動を支援する

区民が主体かつ自由に街づくりに参加できる活動の場づくりへ取り組み、主に街づくり準備会をテーマに、街歩きや委員会開催を通じて区民の関心を集め取り組むことのできる。今年度は、街づくりの仲間たちを本格的に互いに支え、さらに発展させていきたい。



<http://machi-nakama.jimdo.com/>

▼ 芦花公園しあわせの野鳥の会

芦花公園を中心とした文化の情報発信による地域の魅力アップ

野外コンサート(パークライブ)を企画実施。20回目を迎え、多くの来場者を楽しんでいただくことができた。また、草子に無農薬野菜で「おやじの会」を開催し、「リポーター会員」の募集も開始した。



▼ 「道の会」

道に「愛称」を付け絆を深める活動

「いの名が付いた」と道行きの声。夏と水戸2日目は絆を深め絆を深め、さらには7月の道「愛称」を付け、全部で12本の道に62枚の「愛称」を調査。楽しめ楽しい案内板10箇所を設置し、地域の絆を深めた。



▼ からすやのまち運営委員会(第19回からすやまちづくりの会)の設立

街の元氣、安全・安心拠点「まちづくりステーション高山」の設立

用地開削により、高山は拠点づくりが断念したが、多くの賛同者の協力により、高山は実現することになった。平成23年度から、おおきくワークショップを開催し、高山地域のまちづくりのあり方、みんなのまちの課題を解決する約束を考えた。





共生・交流

文化・地域メディア

▼ リエゾン

コーラージュ (芸術療法) と自立訓練によるストレスケアとコミュニティの活性化

芸術療法としての「コーラージュ」の手法で創作講座を開催。講師の誘導で、参加者の関心も深まった。今回のほかグループワークも実施され、交流の取組みの一つで今後の活動も視野に、コミュニティ形成へとつながっていきたい。



▼ SAN / せたがや地域共生ネットワーク 宮坂・経営・赤堤

共生のまちづくりへ・・・タネをまき一まちをひらくSANの試み〜

「自宅の庭を活用してほしい」という新たなオーナーからの申し出を受け、この庭の利用を検討している。「こぼれ種SANカフェ」では地域の力をあおみ、広く地域のニーズを探っている。今後も、緑地の保全、子どもたちの遊び場・遊具づくりを推進したい。



<http://san2010.blog118.fc2.com/>

▼ 水俣世田谷交流実行委員会

障がい者を中心とした芝居づくりと芝居づくりのドキュメンタリー映像の制作

芝居2作品を3回上演。新たな参加者が加わり、芝居づくりのドキュメンタリーを2回上演。障がい者と俳優者が相互交流をしながら相互理解を深める関係が広がった。今後も様々な市民と重度障がい者が地域で生活することについて対話していきたい。



▼ 岡さんのいえTOMO

世代を超えて、触れ合う、つながる、「まちのお茶の館」づくり

これまでの活動で少しずつ地域との絆が深まり、今年度は「つながる」をコンセプトに、多くのイベントを開催することができた。地域や自治体ほかから講演依頼や各種メディアからの取材も増え、施設と知名度が上がり、相乗的にネットワークも広がった。



<http://www.okasanoinoie.com/>

▼ 読書空間あかも

地域共生のいえとしてのみか

奥沢2丁目の水邊洋風住宅の一部を利用し、寄附や寄附金、読書の楽しみを分かち合おうと発足している。今後も子どもから高齢者まで、さまざまな人たちが集まりあえる「まちに開かれた読書場所づくり」を目指して活動をおこなっていききたい。



<http://www.tamamati.com/network/net6.html>

▼ ようが*アワーズ

ラジオカフェ in ハロ〜キょうが

駒澤大学と本ゼミメンバーを中心に毎週金曜日の夜、田舎店跡にある有線番組センタースタジオで放送。出演者も「LIVE LOVE YOGA」発祥の地にも地元ラジオパーソナリ〜と参加。楽しみながらやりやすい環境で放送活動も盛り立てたい。



▼ Welcome ch. (ウェルカムチャンネル)

世田谷区在住外国人と区民とのネットワークづくり

海外や外国人向けのウェブテレビ番組制作グループ。下北沢などで撮影・編集・配信のワークショップを行い、パブリックのウェブ番組も制作した。番組の上映会も国際交流と有線番組制作を通じることができた。今後も番組制作を通して交流を図っていききたい。



▼ お母さん業界新聞 せたがや版 編集部

お母さん目線で地域の輪をひろげよう!

月1回発行の「お母さん業界新聞」に、自主編集したせたがや版を折込み、手渡して配布。地域版の編集員も各業種に携わっているセミナー開催、取材・配布を通じて様々なお母さんとのつながりができた。編集スタッフの不足が課題。



▼ 喜多見(キタミー)

日本の心を保ちまちづくり

高見多見親子の土曜活動と自及により、日本人が大切にしたい地域の心を受け継ぐ人々を育てる。小学校や保育園で書くつやが活動の子ども向けのワークショップ開催。今後は、次々大規模な施設など、子どもたちの成長を鼓舞する場を模索する。



▼ EARTH CREW

地球と世界と地域をつなぐまちづくり

「地球が第一にできること」をテーマに、区内の障がい者や外国人交流などのイベントを開催。しかもまた地元有線番組制作がある「下北沢ラジオ」への企画参加も増え、地元若手様々な人とのつながりが深まった。



▼ 新たな「ネット文庫」の紹介

第10回 助成

まちづくりグループの経験や知見、スキル等が電子図書形式でまとめられています。今回新たに2つのグループの「ネット文庫」が完成しました。トラストまちづくりのホームページに、公開しておりますのでご利用ください。

<http://www.setagayatm.or.jp/trust/fund/library/index.html>

認知症予防しようねっと

認知症予防しようねっとのあしあと

「認知症予防しようねっと」は、2006年に「はじめの一歩部門」、2007～09年に「まちづくり活動部門」で助成を受け、①認知症の兆候を学び、②それを多くの人々に伝え、③予防につなげる」活動を行ってきました。今回の応募は、メンバーにとってひとつのチャレンジで、Webサイト企画、制作、更新、どの作業も不安と苦戦の連続でした。ただ、パブリックインターネットへの挑戦は認知症予防にとっても良い効果があったと思います。これまでは情報誌「ぱちわく」だけの発信でしたが、今後はWebサイトから多くの方々と様々な形で、ネットワークが広がることを期待しています。



NPO法人 玉川まちづくりハウス

玉川まちづくりハウスの活動記録 みんなでイベント part3 2001-2010

NPO法人 玉川まちづくりハウスは、1992年に「活動コンペ」、1993～94年に「まちづくりハウス部門」で助成を受け、永年によって玉川地域のみさんの「思い」を地域で実現していくためのお手伝いをしてきました。今回は「ネット文庫」で、これまで行ってきたいつもの内容を前に、何となく盛り込む試行錯誤の連続でした。「他のグループの活動のヒント」になるようなネット文庫になっているのか不安ですが、ともかく一歩を踏みだして、まちづくりがそれらしいものではないことを感じていただきたことと思います。そして、これをきっかけに双方向のやりとりが増え、ネット文庫が成長していくことを期待します。



●連絡先 〒158-0085 世田谷区三軒丸太町2-11-10 TEL: 03-3721-8699 FAX: 03-3721-8986

これまでのネット文庫

太子堂2・3丁目地区まちづくり協議会

第13回

太子堂2・3丁目まちづくり25年の歩み〜創成式のまちづくり〜

扇山みずとみどりの会

第13回

イベント(ヤゴ節)を通して離れたまちの自然を知る。トンボのヤゴづくり(ヤゴ救出作戦)をきっかけに広い地域の交流を!

砧・多摩川あそび村

第14回

砧・多摩川あそび村〜身近な自然を活用したあそびづくり〜

NPO法人 コスファCOSFA

第15回

夢を持ち寄る〜夢を形にする〜夢が夢を呼ぶ! COS下北沢 5年間の記録!

NPO法人 声花公園の花の丘の会

第16回

地域ボランティアが助成金を活用して拡げた地域活動と人のネットワークづくり〜NPO法人声花公園の花の丘の会の軌跡と成果をふりかえって〜

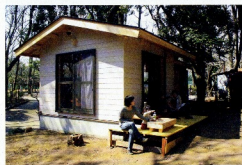
NPO法人 野沢3丁目遊び場づくりの会

第17回

「さむねっぺー」ひろば、の歩み〜地域のみんなで子育てしよう!

新たな「まちを元気にする拠点」の紹介

「世田谷まちづくりファンド」による助成により、まちづくり活動の拠点づくりが進められています。



羽根木プレーパーク内に、乳幼児連れのお親子でも安心して外遊びができる交流ハウスがオープン！室内では赤ちゃんのオムツ替えや授乳、お寝がけができます！

乳幼児の親子と多世代の交流ハウス（平成23年3月完成）

乳幼児を中心とした多世代交流を進める拠点づくり

「乳幼児連れのお親子が気軽に立ち寄って外遊びに楽しめかけの場や、多世代の人たちとつながって楽しむ感覚を感じられる場があったらいいな」という、みんなの思いでつくられた施設が羽根木プレーパークにオープン！世代を超えた多くの人たちの交流の場となる「屋外型」の子育て支援拠点を日増し、活動を進めています。

- ① 毎週月・水・金曜 10:00~15:00
- ② 交流ハウスは、想像以上に、とても素敵な感じになりました。特に、緑蔭部分は「ちよと一休み」と気軽に遊べる雰囲気に満ちていて、とても良い効果を受けています。今後は、乳幼児の親子と地域の様々な世代の人が自然に交流できるような運営を行って、この拠点が地域社会をつくるために最大限役立つよう、力を尽くしたいと思います。
- ③ 交流ハウス（公園施設休園期）新築工事
- ④ 世田谷区代田4-38-52 羽根木公園内
連絡先TEL:03-3414-4175
<http://www.playpark.jp/house/index.html>

■ NPO法人 プレーパークセタがや



まちが元気になる拠点ガイド
第17回助成グループの拠点が1か所、完成しました！
拠点で行われている活動に参加しませんか？



- ① 運営グループ
- ② オープン時期
- ③ グループの人数
- ④ グループの活動内容
- ⑤ 活動日
- ⑥ 交通

第18回助成事業 「まちを元気にする拠点づくり」部門通過グループの紹介

第18回に助成決定した「セタがや水辺の楽校」は、現在完成に向けて計画進行中です！

セタがや水辺の楽校

「セタがや水辺の楽校はらっぱ」子どもと自然が共生する遊び場づくり

「子どもと自然が共生する遊び場づくり」をテーマに、これまで丸太のベンチやミニ芝生プールなどを子どもたちと一緒に作ってきました。近年、幼児や小学校低学年の利用が活発になっていることから、屋外で安全に過ごすための日陰施設(Tree Shelter)と付属物(ウッドステージ、各種ベンチ)、水場施設(井戸ポンプ)の設置を計画中。年内に完成予定。

<http://semizube.exblog.jp/>



FUND ファンドの今を伝える

平成23年度のファンド助成グループが決まりました

第19回(平成23年度)ファンド助成事業の公開審査会が6月4日(土)に開催され、応募総数26グループ中、24グループへの助成が決定しました。

今年度の公開審査会は、前年度の最終活動報告会と同日に開催されました。これにより、46名のファンドグループが参画し、休憩時間には、グループ間での交流も盛んに行われて、今までにないほどにぎわいました。
さて、今年度の助成部門は、「はじめの一步部門」と「まちづくり活動部門」の2部門になったことで、4部門あった昨年度と比べ

ると、応募件数が減少し26グループでした。
応募グループの傾向としては、社会企業的なソーシャルビジネスとしてまちづくり活動を始める、若い世代からの応募が増えたように感じました。
公開審査により、今年度の助成グループ24件が決定しました。各グループの活躍を楽しみにしてください。

部門	グループ名	テーマ	助成決定額(万円)	
はじめの一步部門	子どもでつながるハートくらぶ	交通障害や支援の必要な子どもたちの正しい理解をし、地域の中で共に助け合い暮らす子育てのネットワークを構築	5.0	
	あかねこうぼう	キャラクターと手仕事で、地域を楽しく元気にするみんなの居場所づくり	5.0	
	地域へエネルギーを取り入れること、その伴ったこと	地域へエネルギーを取り入れること、その伴ったこと	5.0	
	Home care team meeting 自由が丘	在宅療養者への地域における医療連携づくり	5.0	
	どんだんガガ方陣!	思いやりを持って暮らすこと! 巨大動物作り、大人も子どもも、町も元気に!	5.0	
まちづくり活動部門	フレンドリーグループ	花づくり空間を通して地域のひろがり一手と手を結び花づくり	5.0	
	パーマカルチャーガーデン世田谷	コミュニティガーデンのモデルコースづくり	30.1	
	からずやま地域の力を集める会	まちの課題発見と解決に向けたネットワークづくり	29.5	
	きっかけファクトリー	緑化推進の"魔法"を通じたコミュニティ形成	21.4	
	千歳小おやしの会	千歳小の森のふりしほり活動を通して、校外学習を促進し、子どもたちの健全な育ちと地域貢献に結びつけて貢献を行う	25.7	
	NPO法人玉川にエコタウンをつくる会	子どもたちの緑の保全と再生を促す	25.6	
	街づくりの仲間たち!	「街づくりの仲間たち」が交流する場を本格的に立ち上げ育てる	12.6	
	ここから Selffeel (セルフフィール)	暮らしに元気に! ころもらどもらどらラックス	9.7	
	Welcome Ch	世田谷区民と在住外国人とのネットワークづくり	17.1	
	働きたくママの応援 Café	子育てしながら仕事を続けるママ応援一般系カフェの仕草をつくり	25.2	
1回目	フラワードライヴミニディ	高齢者・障がい者、子どもたちが花づくりに参加することにより元気なまちを創る。"てくてくおやま"の"まち"の再発見	18.4	
2回目	東京グリーンプロジェクト	子どもと高齢者を繋ぐ	35.4	
まちづくり活動部門	2回目	放談後あそび舎	放談後あそび舎の「あそび」を1〜5歳の住む町を知り、地域の子どもたちを巻き込んで活動する	13.0
3回目	野川(世田谷区)の多自然川づくりを考える連絡会 SAN/セタがや地域共生ネットワーク 遊飯・経堂・赤塚	野川を多自然川づくりについで進める	22.3	
4回目	野花公園(あむね)の野音の会	野花公園を中心とした文化情報交流による地域の魅力アップ	28.6	
5回目	善徳寺駅周辺風景づくりの会	善徳寺駅周辺の風景づくり	24.4	
6回目	間ももいへTOMO	「東北にひろがるみんなのお祭り」づくり	40.6	
7回目	わいわいコミュニティ・たまがわ	多世代交流の場づくりに向けて	36.4	
合計			473.1	

▶ 助成グループへの審査講評はこちらから

http://www.setagayafm.or.jp/trust/fund/this_year_group.html



「集める」ための創意工夫 ～ ③つのポイントから、まず考えよう! ～

みんなが直面する、「活動資金不足」

NPOやボランティア団体に対して、「地域で活動するうえで、何に困っていますか」というようなアンケート調査をしますと、いつもトップ3にあがるのが、「活動資金の不足」、「粗い手(スタッフなど)の不足」、「専門性の不足」といわれています。特に活動資金の不足は、多くの調査でトップを占めることが多いようです。

地域で活動するうえで、まずは何をしたいか、それをどのように行うかをカタチにしていることが第一です。多くの場合は、まずはみんなで持ち

出しでボランティアでやるということになります。しかし、活動が動き始めると、ちょっとした経費が必要になってきます。活動が評価されるようになってくると、責任ある運営も必要となってきます。

そうなってきますと、次に活動資金をどう集めていくのが注目されてきます。活動資金の集め方は、活動内容やその団体のおかれている状況によって「四団体百通り」の正解があるのですが、ここでは、特に共通論としてポイントになる3点を説明したいと思います。

ポイント 1 会員・サポーター制度を魅力的につくろう!

第一のポイントですが、多くの地域の団体が会員制度やサポーター制度を持っています。持っていない団体は、是非おつくりになることをおすすめします。しかし、「会員、年5,000円」と設けるだけで支援が集まるわけではありません。

会員・サポーター制度は、「実利感」「共感」「仲間感」の3つの要素をどう組み合わせるかで、訴求力が全然違ってきます。

- 実利感…何かの割引とか、ニュースレターがもらえるなどのメリット
- 共感…その活動の支援対象への共感や、抱いている人たちに応援する気持ち
- 仲間感…その団体の仲間の一員となるのが楽しそうだったり、生きがいを感じられるという気持ち

実際、会員になる方は、この3要素がいろいろと絡んで会員になったりしています。この設計をどうにするかで、会員の訴求力は相当違ってきます。例えば、何か有料のイベントを開催するときに、会員に割引を提供しますというのが「実利感」です。この割引率を高くすると、「じゃあ、会員になるか」というきっかけとなります。でも、それだけで、1年後に会員を継続してくれる可能性は低い。そのため、いかに「実利感」で会員になった人にも、金銭や集いの企画へのご招待などを通じて、「共感」や「仲間感」の要素を訴求していくかということを考えるわけです。

ポイント 2 少しでも対価性のあるサービスを充実しよう!

全ての活動経費を寄付と会費だけでねん出するというのは、結構大変です。そこで、対価性のあるサービスを生み出すという観点が大切

になります。勉強会、講演会、物販、イベント入場料、講師謝金、業務委託など、様々な対価性のある事業があります。

「NPOでやっているとだから、無料にしないといけないのでは…」と思う人が多いのですが、NPOであっても、きちんとサービスに価格をつけるということは問題ありませんし、大切なことです。

助成金を得ることもあると思いますが、いただいた助成金を単に活動を進めるために「消費」してしまうのではなく、将来、収益を生み出す事業モデルを生み出すための取組みに「投資」するという発想も必要です。助成金でこれまでの取組みを集約化してマニュアル化の上と、それを題材に研修会を際、それを有料にするというような発想です。発展成長するNPOは、そうしたお金の話し方がうまいのです。

ポイント 3 もったいない系を大切にしよう!

第三に、いま、日本中で広がっている、「もったいない系寄付」をうまく活かすという視点です。書き損じ葉書、古本、DVD、賞金など、使わなくなって処分しようと思っているものを寄付してもらうという取組みです。

書き損じ葉書は、いざとくと、郵便局にもっていくと、切手も替えてくれます。1枚で40円くらいになります。これひとつとっても、決して侮れないのが、ある東京のNPOの場合、書き損じ葉書だけで年間6,000万円の寄付になるまでになっている事例もあります。また、こうした「いらなくなったものを寄付してもらう」という取組みの場合、割とお断りしやすいので、まず、地元企業や団体との関係づくりとしても活かせるというところがあります。

日本社会は、「モノに想いを託す」という感覚のある社会です。金額の寄付より、こういった「モ

ノ」を介した寄付のほうがやりやすいと感じる人も多いようです。

区民に参加のきっかけを提供するのが資金集め

活動資金を集めるということは、気が重いことかもしれません。しかし、この「支援をお願いする」プロセスは、自分たちの活動への理解者を増やし、ファンを増やすことでもあります。その結果、区民が地域社会を考えたし、良くなる取組みにかかわるきっかけを提供することでもあるのです。単にあつまる資金ということを超えて、意味がある取組みだと思います。



鶴尾 肇隆
(右 正木さん)

日本ファンドレイジング協会常務理事、株式会社ファンドレイクス代表取締役

赤坂信託協賛協力員、JICAも受託、04年本誌インタビューで「Certificate on Fundraising Management」も取得、08年株式会社ファンドレイクスも創設し、NPO向けのファンドレイジング改善や新事業のコンサルティング等を行う。09年2月に日本ファンドレイジング協会を設立。「ファンドレイジングが社会を変えられる」とも、世田谷まちづくりファンド運営委員。

【お断りです】

「ファンドレイジングが社会を変えられる」という夢の資金集めを成功させるための原則…

- 書式・印刷代確保
- 送料は「ノ」一紙切
- 最低値「1,500円」



編集後記

今回はじめて「結んでひらいて」の編集を担当しましたが、ファンド助成グループの活動を取材させていただき、住長の前さんの世田谷に対する熱い思いに圧倒されました。

私も、世田谷に受け継がれてきたまちづくり活動を伝え、新しい活動への模索ができればと願っております。

※ 今号より、(財)世田谷トラストまちづくりの機関誌として発行します。

ファンドの寄付についての情報は記載いたしませんので、ご了承ください。

■「結んでひらいて」73号 編集・発行



財団法人
世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課
〒155-0031 世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
電話:03-6407-3313 FAX:03-6407-3319

http://www.setagayast.or.jp